

保険証一枚ではり・きゅう・マッサージを受けたい

# 医療を考える会 会報

発行元:NPO 法人 医療を考える会

住所 渋谷区代々木2-39-7メゾン代々木201号

TEL 03-3375-6151 / FAX 03-3299-5275

メール [iryu-kangaeru@waltz.ocn.ne.jp](mailto:iryu-kangaeru@waltz.ocn.ne.jp)

ホームページ <http://npo-iryu.org/>



## 第17回NPO「医療を考える会」定期総会を成功させよう！

NPO 法人医療を考える会 理事長 山西俊夫

7月からの第5波の新型コロナ感染拡大も10月に入り漸く収束を見せている様子ですが皆さまいかがお過ごしでしょうか。

今回の新型コロナウイルスに対する薬剤やワクチンが開発されたとしても、近い将来、新たな新型ウイルスが必ずや出現するのは確実と言われています。ワクチンの副作用に対する不安は消えません。患者会員である私はこのような不安な社会に生活しているからこそ、自分の身は自分で守ることの重要性、長年東洋医療を受けて免疫力を高めているお陰で、今回の新型コロナに対する予防効果があったと痛感しています。

コロナ禍に振り回された一年でしたが、9月30日には、湯河原在住の患者の方が、清水一雄先生と共に、厚労省で開かれたマッサージ療養費の不支給再審査請求の公開審理の場に参加して、抗議の声をあげておられます。今後、このような場を活用して、施術師の先生方と共に患者の声を国にぶつけていく必要があります。

総会で皆さまと意見を交換し合い、皆さまと共に「東洋医療に健康保険を適用させる」運動を高めていくことを確認する場としたいと念願しております。

一人でも多くの会員の声を反映する機会に致したく、ご参加を賜りますようお願い致します。

### 第17回定期総会

日時：令和3年11月21日（日）

13時30分～14時10分

会場：YCC代々木八幡コミュニティセンター

（スタジオ1と2）



# 新型コロナウイルス感染症と東洋医学

理事 田中榮子

先日「新型コロナウイルス感染症と温病医学」という講演をきき、永い歴史の中で住民の命をまもってきた東洋医学の知識の広さにあらためて感動しました。

その要旨をすこしでもお伝えできればと思いご報告いたします。

講師は、群馬県で鍼灸、指圧治療院を開設し治療を行っている武藤純一先生です。先生は長年、伝統医学を学び実践してきた方で、中国へ2回研修に行かれています。勉強会の主催者は新医協伝統医療研究会でした。

## 過去にもあった新型コロナウイルス感染症に似た病状

武藤先生のお話では、新型コロナウイルス感染症と類似した病状について、すでに古代中国の医書で触れられているということです。

中国の明、清の時代（1600年～1800年代）に書かれた古代中国の医書には、温病と称せられた急性伝染病の病状や治療方法が書かれていることが、医書のなかの文を引用しながら説明されました。

- この病気の病原体は、口から鼻へ入り突然症状がでること、また、病状が急激に変化し、死に至る人も多かったという事です。
  - 侵されるところは、肺部、心臓、脳が主である。
  - 症状一脈状、舌状に特徴があり、発熱、大汗、顔面紅潮、悪寒など熱症状が激しい。
  - 治療は中国では漢方薬、白虎湯などをよく用いている。早急に的確な治療をしないと急変する。
- ポイントは、その人の自然治癒力を高めるように、陰陽のバランスをいかに整える事だった。

今、私たちのまわりではやっているコロナ感染症も先生のお話の通りです。肺が主に侵され、心臓、脳を侵される人もいます。

味覚や嗅覚の異常や若い人でも心筋炎で亡くなる方もいました。入院するベットが足りず、自宅で急変して亡くなる人が次々に出ましたね。

日本での鍼灸、指圧治療は、いろいろな体調変動が現れてからの後遺症に対する治療が主だと思います。しかし、武藤先生がお話されたように陰陽のバランスをいかに整えるかをその人に応じて行い、普段から丈夫な体作りを実行して、もし感染しても軽くすむようにしたいものと思います。

そのためには、私たち「NPO法人医療を考える会」が取り組んでいる「東洋医療、鍼灸、マッサージ治療を健康保険で安心して受けられるように」の実現に持っていくことが大事です。

感染症の予防、感染症からの回復も東洋医療を利用できれば心強いと勉強会で再確認できました。

新型コロナウイルス（COVID19）は寒い時季に活動が活発になるようです。

私たちは油断しないで、必要な注意は怠らず、心穏やかに暮らしていきたいでしょう。





## コロナウイルス感染症に対する東洋医療の効果は

理事 高橋養藏

東洋医療の効能、効果は、自然治癒力と自己免疫力の活性化とされています。

昨年2月から感染者が増え緊急事態宣言が出され、一時は減少するが、また増加すると言った状況を五たび繰り返しました。この10月に入って一説によると、ワクチンの接種効果、外出の自粛、天候などの影響で感染者が減少してきたとされています。この1年8か月にわたる経過の中で東洋医療の効果は、どうだったのか振り返ってみたいと思います。

現在、私は指圧と骨盤矯正の治療を行っています。2020年2月コロナウイルスの感染者が多くなるにつれ、感染を心配して治療に見えなくなった患者さんが7名いました。現在も変わっていません。予想したより少なかったのは助かりました。

現在、治療に見えている患者さんは、初療で見た時は腰痛、膝関節症で症状の重い方でした。その後ひどくならないようにと予防のために治療に見える方が多くなっています。1年8か月を振り返ってみるとコロナウイルスに感染した患者さんは、一人もいませんでした。印象に残っている70代の患者さんが二人います。一人の方は、無症状の陽性患者の息子さんと一昼夜過ごした方で、息子さんが帰宅した後症状が出て、保健所から連絡があり濃厚接触者になりました。「2週間外出しないでください。」と指示されたそうです。その後も感染せずに済みました。もう一人の方は、娘さんにお土産を届けて無症状の娘さんと2時間ほど接触、その後娘さんの陽性が判明。保健所から連絡があり「娘さんと濃厚接触者です。病院でPCR検査を受けてください。」と指示がありPCR検査を行ったところ陰性だったと、治療に見えた時報告してくれました。二人とも感染せずに済みました。

この経過から、定期的に指圧治療を行うことが自己免疫力を高め予防効果を発揮したと考えられます。

報道によると漢方薬の活用でも症状を緩和し回復を早めたと報告されています。

私たちが取り組んでいるはり、きゅう、あん摩、マッサージ、指圧治療を必要だったら健康保険でさまざまな制限なく受療できるようにしましょう。



## 私自身の体験から

私が鍼灸にめぐり会ったのは、以前も御紙に書かせて頂きましたが、職業病の頸肩腕症候群と腰痛症でボロボロになった時、“健康まつり”で鍼灸の先生と知り合い治療を受けたのがきっかけでした。以来30年近く続けていまして、お陰様でこの歳まで人並に胃がん、脳梗塞等にもかかりましたが軽くすみ、近年は風邪ひとつひかず元気に過ごしています。

このような私自身の体験からも、東洋医療、鍼灸マッサージは体のバランスを調べ、回復力、免疫力を高めて病気に打ち勝つ力をつけてくれる医療だということ、西洋医学とはちがうプロセスからの働きがあるということがわかります。

しかし、鍼灸医療にはほとんど健康保険がききません。自分の体験からも健康保険が使えるようになれば、もっと気軽にだれもが健康な人生を全うできるのではないかと思うのです。署名にも微力ながら協力させて頂きましたが、国公立病院の民営化や保健所減らしを進めてきた今の政権のもとでは、極めてむずかしいということが、今回の新型コロナに対する政府の対応でよくよく知らされました。幸い今年は国政選挙の年です。秋の衆院選で政権交代を実現し、本当に国民のことを考えてくれる政府を私たち一人一人の力で作っていきましょう。



賛助会費 利根川 美代

## 体験マッサージのお知らせ

今後の予定は…

日程：令和3年11月18日(木)

令和3年12月16日(木)

令和4年 1月20日(木)

時間：13時30分～16時

場所：渋谷区千駄ヶ谷社教館 3階 和室



新型コロナの感染状況により変更になる場合があります。ご了承ください。

参加ご希望の方はご予約をお願いします。

TEL 03-3375-6151 山口

## 次への準備 入院制限などないように、病院、保健所の増強を

10月10日コロナ感染者は全国で553人、ようやく第五波は終了なのかと思われる状況です。

しかし、この感染急減の原因がわからないのです。

専門家もワクチン効果は認めています、感染急減をもたらしたものはなにが、感染防止へなにが最影響したのか、これからの研究が必要との見解です。

他の国に先駆けてワクチン接種を進め、感染を制圧するかに見えていたイスラエルでは、再び感染拡大がすすみ、9月上旬には新規感染者数は過去最悪を記録し3回目のワクチン接種を進めています。新しく総理となった岸田総理も3回目のワクチン接種をすすめる事を表明しています。しかし、変化を続けるコロナウイルスですから、ワクチンが感染防止にどの程度の効力があるのか、今後、研究が続けられなければならない問題です。

また、コロナワクチンの副作用に触れる医師の出版物も出されておりこの点での十分な研究も必要です。NPO医療を考える会では、いろいろなワクチンの乱用や副作用の問題の勉強もしてきました。コロナワクチンの有効性や副作用についても勉強も大切です。

さらに、ワクチン3回接種は一部先進国のワクチン独占であり、感染防止に重大な問題となるというWHOなどの指摘もあります。国際的な協力が不可欠な問題も重要です。



## 都立病院の独立行政法人への移行は中止を

8月の初めに菅総理が行ったコロナ感染者の入院制限には本当に驚きました。

感染拡大のなかで病床は逼迫し、受け入れ先がなく自宅で死亡する患者が相次ぎました。政府の長年の医療費削減のため、感染症患者を支える全国の保健所が縮小され、また、全国各地域の中核病院も運営の縮小を強要されてきた、医療体制弱化の結果です。

東京都が運営に責任を持つ都立病院や公社病院をなくして、都の医療関連予算の削減を目的とした、都立病院の独立行政法人への移行が進められています。

都立病院の8病院、東京都保健医療公社設立の6病院の独立行政法人運営への移行がすすめられており、病床逼迫の深刻な事態を体験したにもかかわらず移行計画は変更されていません。

これらの病院は都民の医療をまもる中核病院です。コロナ感染の今後の問題を考えると、なによりも医療体制の強化、保健所や病院の強化が必要です。独立行政法人への移行は行わすべきではないと思います。（久下勝通）